

「あなたを呼ぶ声」
マルコの福音書2章13節~17節

新型コロナウイルスの脅威は、感染拡大を防ぐための手段として、国と国、人と人との「隔て」を生み出しました。イエスの時代にも様々な「隔て」が存在していました。取税人レビはそうした「隔て」の中に生きる人物でした。本朝はイエスがそのような彼とどのように関わったかを見ていきましょう。

1. 取税人となったユダヤ人

取税人レビには「アルパヨ」という父がいました。彼は典型的なユダヤ人の名である「レビ」、そして「マタイ」(マ19:9)という名を持っていました。聖書はなぜ彼が取税人になったかを語ってはいません。当時のユダヤ人は取税人を「強盗」と呼び、特にパリサイ派の律法学者は取税人を「罪人¹」として嫌いました。取税人の雇い主ローマ人も取税人を軽蔑していました。

2. レビが明らかにした「隔て」

レビはカペナウムの収税所でユダヤ人から通行税を徴収していたようです。彼が収税所に座ることで人々(ユダヤ人たち)は次の「隔て」を意識することになりました。

- ① ユダヤ人同士の間にある「隔て」
- ② 神とユダヤ人の間にある「隔て」
- ③ 「神の民」と「地の民」(罪人)の間にある「隔て」

3. 人を縛り付ける「隔て」

レビは群衆がイエスのもとに押しかけていたことを知っていました。けれども彼は、依然として収税所に留まっていたのです。湖のほとりに向かった群衆と収税所に座っているレビの姿勢は対照的です。彼が自分の意思で取税人になったのか、あるいは抗うことのできない状況によって取税人になったのかは分かりません。取税人は、ユダヤ人社会の中で神の救いから隔てられた「罪人」と呼ばれていました。彼には同胞のユダヤ人、雇い主のローマ、そして神との間に「隔て」がありました。それらの「隔て」が彼を収税所の椅子に縛り付けていたのです。

4. イエスの呼びかけは「隔て」を超えて

イエスは、レビを取り囲む「隔て」を気にも留めず、彼を見つめ、声をかけました。イエスの眼差しと呼びかけによってレビは立ち上がり、収税所の椅子を後にすることができたのです。レビは自分で自分の生き方を変えることはできませんでした。イエスの呼びかけが、レビをキリストに従う者とさせたのです。

あなたは今朝、どのような「隔て」の中におられるでしょうか。それがどのような「隔て」であれ、イエスはそうしたあなたに目を留め「わたしについて来なさい」と呼びかけてくださるのです。

1 ギリシャ語辞書 BDAG は、マルコ 2:15~17 の文脈における「罪人」を「律法の逸脱者、律法の外にいる部外者」と解説する。